

物理を専攻した理由を聞きました ～教え子の女の子にインタビュー～

北村 知子

西中の時に担任した百加ちゃんからメールが来ました。

3月18日に西中同窓会をやるので是非来てください、とのこと。

今年の1月に成人式で集まった何人かから、3月に中学の時の先生達もよんで、集まりたいね、という話が出たらしいです。

百加ちゃんのメールによると、高校で物理の授業を受けてとても興味がわき、今は物理を専攻している、とのこと。

同窓会にいかがでしょうか迷ったけれど、せっかくのお誘いだし、百加ちゃんが物理を専攻しているということにとっても興味がわいたので、出席します、と返信したのでした。

百加ちゃんは中学生の頃は、本が大好きで、将来は司書さんになりたいと言っていたのです。そんな百加ちゃんが、なぜ物理専攻になったんだろう、ぜひ聞いてみたいな。

物理の魅力は数学から

同窓会場に行くと、ハンドボール部にいた子たちが集まってきました。中学生の頃は、みんな真っ黒に日焼けしていました。ハンドボールをやるには中学の体育館は狭すぎるので、校庭のさらに外にハンドボールコート(20m×40m)を作って練習していたのです。20歳になった彼ら彼女らは色白になった気がしました。女の子はお化粧をして、マスクもしているので一見誰だか分かりませんでした。よ〜く見たら思い出しました。

男の子も髪を染めたり、ヘアスタイルをオシャレにしていたりして、中学を卒業して5年しか経っていないのに、なんだかずいぶん変わった感じ。

好きな食べ物を取りに行き、テーブルで食べながら、自由に席を移動してください、と司会の子が言うので、食べていると、次から次へと「先生、私は誰でしょう?」とか「ぼくのこと、覚えていますか」なんてやってきます。

別れてから5年とは言え、中学生から20歳までの変化は思ったより大きく、しかも、中学生の頃はマスクなしだったのに、現在はマスクで顔半分が隠れているので、なかなか思い出せない子も多くいました。

最初の頭文字を言ってもらったり、中学の時の部活を言ってもらったりすると思い出せました。

吹奏楽部グループがやってきました。百加ちゃんはその中にいました。近況を一人一人から聞いたり、写真を撮ったりした後、百加ちゃんに聞いてみました。

「中学生の頃は司書さんになりたいって言ってたけど、なんで物理のやることになったの?」

「高校2年生で物理の授業を受け始めたとき、物理の先生が物理って数学と関係があるんだよ、数学を使うと物体の運動を表す式なんかがよく分かる、って言ったんです。それは本当でした。数学を使えば物理ってとてもよく分かる教科なんだって分かったら面白くて。」

これは分かるなあ。私は、速さとか加速度を求める式が物理の教科書に載っていたのを見て、加速度って速さの式を微分し形だなあ、とか距離って速さの式の積分の形だなあ、そう言えば中学の時、距離は速さのグラフの面積を求めることなんだって教わったっけ、と思い、物理に微分や積分を持ち込んだらよく分かる、と発見したのだった。

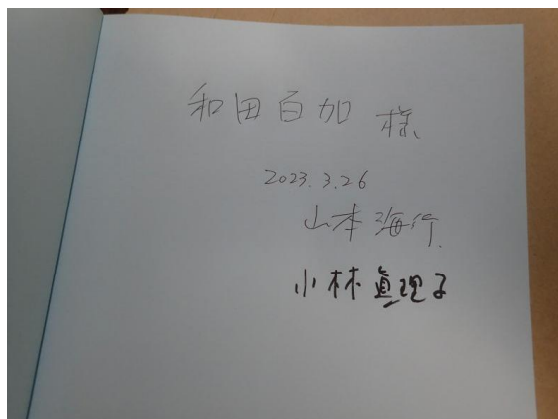
「私は『宇宙』とか『素粒子』って聞くと、なんだかワクワクしてきちゃうんだけど、百加ちゃんは物理のどんな分野が好きなの?」

「私も『宇宙』が大好きなんです。それで、大学を選ぶときに宇宙に関係する物理が勉強できる場所を捜したんです。地元の群馬大学は宇宙物理は扱ってなくて、隣の新潟大学の理学部なら宇宙物理ができるって分かったんですよね。それで新潟大学の理学部に入ったんです。」

「今、興味が出てきたのは放射線。中学生の頃はよく分かっていなかったけれど、放射線を調べると宇宙のことが分かるんですよ。」

放射線と聞いて、今度、仮説社から出版される『霧箱で見える放射線と原子より小さな世界』を送ってあげようと思いました。





東日本フェスティバルで購入し、著者の山本さん、協力者の小林真理子さんにサインしてもらいました。

村山 斉（むらやま ひとし）さんが好きな言葉を今、思い出しました。

Universo e scritto in lingua matematica.

宇宙は数学の言葉で書かれている。

ガリレオ・ガリレイの言葉だそうです。

最近、朝日新聞に載った気になる記事も載せておきます。